

令和8年5月12日

## 令和8年度 熊本県内高校大会における

### 「給水のためのタイムアウト」の取り扱いについて

熊本県高体連バレーボール専門部

専門委員長 中島 健

熊本県バレーボール協会

審判委員長 田村 誠

熱中症予防の観点から、「給水のためのタイムアウト」を採用する場合、以下のように取り扱うこととする。

1 大会では、各セットにおいて、リードするチームが13点に達したとき、30秒間の給水のためのタイムアウト（以下WTO）が自動的に適用される。その際、2ndレフェリーが吹笛をし、コートを退くように促し計時をする。ハンドシグナルは示さない。（もし、上述のWTOの適用に気づかなかった場合は、気づいたときに適用する）

※デュースになり、30-30に達したときに2回目のWTOを適用する。（もし、30-30に達したときに2回目のWTOの適用に気づかなかった場合は、31-31、32-32…のように同点になったときに適用する）

※5セットマッチの最終第5セットには、WTOを適用しない。

2 このWTOは給水を目的とするものであり、その間選手はウォームアップエリア付近で給水を行う。またチームスタッフはチームベンチに座っていることとする。マネージャーは、選手の給水のためであればチームベンチから立ち上がって行動することができるが、それ以外の目的であればチームベンチに座っていることとする。

（給水を行うか否かの判断は、選手本人の意思による。給水を行わなくても同エリア付近にとどまること。控えの選手も同様である）

3 （3セットマッチの）第3セットは、13点でチェンジコートをした後に引き続きWTOとなる。その際、1stレフェリー側を通過してコートを移動したチームの最後尾の選手がベンチ側のサイドラインを通過した時点で2ndレフェリーが吹笛をし、計時を始める。

4 正規の中断の要求（選手交代、タイムアウト）やリベロリプレイスメントよりもWTOを優先する。正規の中断の要求やリベロリプレイスメントを行う場合は、WTOの後にその手続きをする。

令和8年5月12日

## 令和8年度 熊本県内高校大会における

## 「チームメンバーによるクイック・モッパ―」の取り扱いについて

熊本県高体連バレーボール専門部

専門委員長 中島 健

熊本県バレーボール協会

審判委員長 田村 誠

気温や湿度が高い時の円滑な試合運営の観点から、「チームメンバーによるクイック・モッパ―」を採用する場合、以下のように取り扱うこととする。

- クイック・モッパ―は、当該チームからベンチ内外を問わず最大2名まで配置することができる。その場所は、ベンチ内の選手であればチームベンチまたはウォームアップエリア、ベンチ外の者であればチームベンチの両端とする。また、服装は、ベンチ内の選手であればユニフォームを、ベンチ外の者であればユニフォーム以外の統一されたものであること。
- クイック・モッパ―は、ラリー終了後にチームで準備したタオル等を用いて、コート上の濡れた場所を速やかに拭くこと。
- 試合開始前、タイムアウト及びセット間におけるワイピングは、ベンチ控え選手またはクイック・モッパ―が柄付きモップを用いて行うこと。
- クイック・モッパ―は、ボール拾い等を含め、公式練習に参加することができない。ただし、ベンチ内の選手がクイック・モッパ―を行う場合は、この取り扱いを適用しない。
- クイック・モッパ―が試合中、応援及びチームのマネージメント行為（ドリンク、アイシング作り等）をすることは一切禁止とする。ただし、ベンチ内の選手がクイック・モッパ―を行う場合は、この取り扱いを適用しない。